

行雲流水

No. 15 令和3年4月9日発行

桜の季節に思う

校長 寒河江 正人

暖かな日和に誘われ、本校の「**桜の花びらは、ほほ満開**」。
「**観る者の心**」を柔らかく、優しく、癒してくれています。

門脇明人さん、奥山めぐみさん、お誕生日おめでとうございます。
「**桜の季節**」に、この世に生を受けたんですね。
なんと「**素敵な人生のスタートの瞬間**」なのでしょう。
きっと、お父様もお母様も、笑顔で「**かわいい、かわいい。**」と喜んだことでしょうね。

「**桜のつぼみ**」は、長く寒い冬を、小枝にしがみつくようにして耐え続けてきました。
「**暖かさ**」とともに、ふっくらと色づき、花開く日の「**喜び**」を春風に託します。
「**ピンクに色づくつぼみ**」を仰ぎ見つつ、その耐え忍んだ日々を**そっと**労うというのも、
また「**人間らしい思いやり**」でありましょう。

門脇明人さんのお母さまも、奥山めぐみさんのお母さまも、おなかに**生命のつぼみ**を抱え、
きっと静かに、静かに「**春の訪れ**」を待ったのでしょう。

「**人の歩み**」の花が開くのも、**長く辛い忍耐の末**にあるのかも知れません。
だからこそ、耐え抜いた「**人生の開花**」を見ると、人は惜しみなく**称賛を贈る**のです。
先日の競泳日本選手権で優勝し、「**池江璃花子選手が見せた涙**」に感動した人も多いはず。

未だ花は開かず、じっと「**人の世の寒風に耐えているささやかな歩み**」にも、心を込めた
「**いたわりと励まし**」を与え合うのも、人間だけができる「**思いやりの営み**」でしょう。

人の心が乱れ、すさんでくると、ともすると「**耐えること**」を忘れ、「**譲えること**」を忘れ、
「**いたわりと励ましの思いやり**」も忘れがちになるものです。さみしく悲しいことです。
そうになってしまうと、人の世の乱れは、さらに増すのであります。
しかし、私たちには、そうならないための「**賢い知恵**」があります。

せっかくのこの季節、**桜の咲く姿**を仰いで、しばし**我が心**を省みてはいかがでしょう。